

# 外国人、子育て女性など 採用対象の裾野広げ、優良人材を獲得

●(株)日本財託 東京都新宿区

## 就活イベント、学校提携を通じ 留学生を毎年採用

社内食事会・スタッフの近況を  
ページ化して配布

東京23区内で賃貸住宅約1万3000戸を管理する(株)日本財託(東京都新宿区、代表取締役・重吉 勉氏)は、5年ほど前から外国籍の人向けの住宅仲介を積極化。それに伴い、言葉の問題やトラブル対応に備えるため、外国人スタッフの登用を開始した。さらに「人口減、オリンピック開催決定



(株)日本財託  
総務部課長・白川博司氏

等により、外国籍人居者のさらなる獲得と提案力の強化が必要(同社総務部課長・白川博司氏)と、今年7月に「国際事業課」を設立。それまで、外国人スタッフは日本人スタッフと同じ業務を前提に採用していたが、「外国籍人

居者のみに対応」する専属スタッフの採用も開始した。  
募集活動としてはまず、日本での就職を希望する外国人留学生が集まる就活イベント「アジア人材就職・転職説明会」に出展。説明会の場では、同社のアットホームな社風が伝わるよう、Facebookページに掲載した記事の中から、社員同士で行なった食事会やイベント、スタッフの近況など、できるだけ会社の雰囲気やイメージでみるものをピックアップし、プリントにまとめて渡している。  
「社会人経験のある留学生は、流暢な日本語を話すので、マナーやコミュニケーション能力に関してはほとんど問題がありません。彼らの一番の悩みは、日本で働くことへの不安。こうし

たマイナス要素をなくし、「この人たちと働いてみたい」「楽しそうな会社だな」と思ってもらうことが、外国人人材の獲得の第一歩だと思います(白川氏)。

### インターン受け入れで

#### 不動産業の面白さを直にPR

また、2011年からは留学生向けのインターンシップも開始。(公財)日本賃貸住宅管理協会、文化外国語専門学校と提携し、毎年、1回の研修につき2〜3週間、留学生数名を受け入れている。社会貢献活動の一環としての取り組みだったが、外国人積極採用への方針変更に伴い、インターン修了者の社員登用も視野に入れ、今年から研修プログラムを強化した。

今年8月には、15年の新卒内定者と留学生とを交えた実地研修を実施。営業エリアの周辺事情や物件選びのポイントなどを2グループに分かれて調査し、最後にアピールポイントをレポートにしてお互いの成果を発表してもらった。「留学生にとって新鮮な体験だったようで、『楽しかった』『不動産業

の面白さが少し分かった」などの声が聞かれました。内定者も「留学生に負けていけない」と良い刺激を受けたようです。今後の研修では、さらに日本で働くことの楽しさ、不動産業の良さを伝えるためのカリキュラムを工夫していきたい(同氏)。

同社ではこれまでに6人の外国人を社員として採用。中には、産休・育休を経て復帰したスタッフもいるという。「現在、当社の月間契約数の約2割弱を外国人が占めており、外国人スタッフは実務面で大活躍しています。今後も優良な外国人の方を採用していくために、インタ

出産後に復帰した外国人スタッフ(左側の女性)もあり、会社側の受け入れ体制も万全(写真提供:株)日本財託



Facebookには、外国人留学生が見ても会社の雰囲気やスタッフの様子がイメージできるものをアップする(写真提供:株)日本財託

ーンカリキュラムの見直しを行なうなど、さまざまな獲得の工夫を行なっていく(同氏)。